年次報告 2019

公益財団法人 国際開発救援財団

FIDR
FOUNDATION FOR INTERNATIONAL DEVELOPMENT/RELIEF
心をあわせ、未来をひらく

ご挨拶

理事長 牧島延浩

法人賛助会員、個人賛助会員をはじめ、当財団をご支援くださる皆様に、日頃よりのご支援、ご協力に対し厚く御礼申し上げます。さて、ここに2019年度の年次報告をお届けするにあたり一言ご挨拶申し上げます。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大は、世界の経済、社会活動に大きな影響を及ぼし、依然、終息を見通せない状況が続いております。日本では、緊急事態宣言が解除され、徐々に自粛要請等の規制解除も始まりましたが、今後も、感染拡大の第２、第３の波に備えるべく、感染予防対策の継続が必要となっております。

そのような中、FIDRは、海外においては、カンボジア、ベトナム、ネパールで、子どもの福祉を中心とした医療、保健、教育、農業、収入向上等の活動を着実に進め、新型コロナウイルス感染症への対応も含め、より多くの人々に支援が届くよう努めております。また、国内においては、地震や台風等の被害に対し、行政による支援の届かない部分を中心に、地域の復興のための効果的な援助活動に取り組んで参りました。

FIDRは今後も、ご支援者の皆様の期待にお応えすべく、アジアを中心とする開発途上国援助と国内外の大規模災害への緊急援助を積極的に推し進めて参ります。引き続き、皆様の温かいご支援とご協力を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

目次

ご挨拶 …… 2
2019 年度の FIDR …… 3
活動地とプロジェクト概要 …… 4
子どもたちが「安心」して通える学校を! …… 6
国際協力援助
　カンボジア …… 8
　ベトナム …… 10
　ネパール …… 12
　共催事業 …… 12
緊急援助 …… 13
みなさまとともに …… 14
広報啓発 …… 16
会計報告 …… 17
FIDR について …… 18

2019 年度のFIDR

4 か国で
11 プロジェクト
441,000 人のために

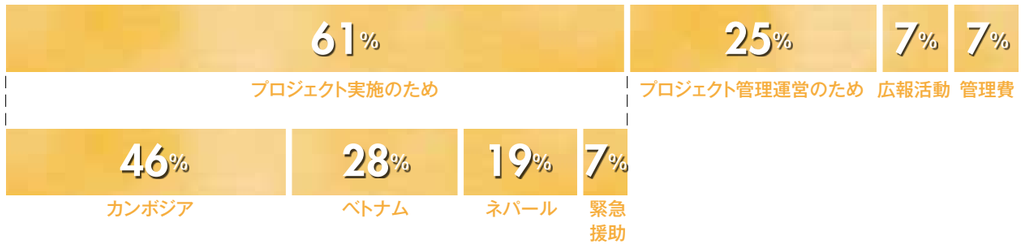
331 法人　**2,450** 人
の支援者の皆さま

お預かりした資金

¥305,251,000

資金の使い方

¥298,222,000



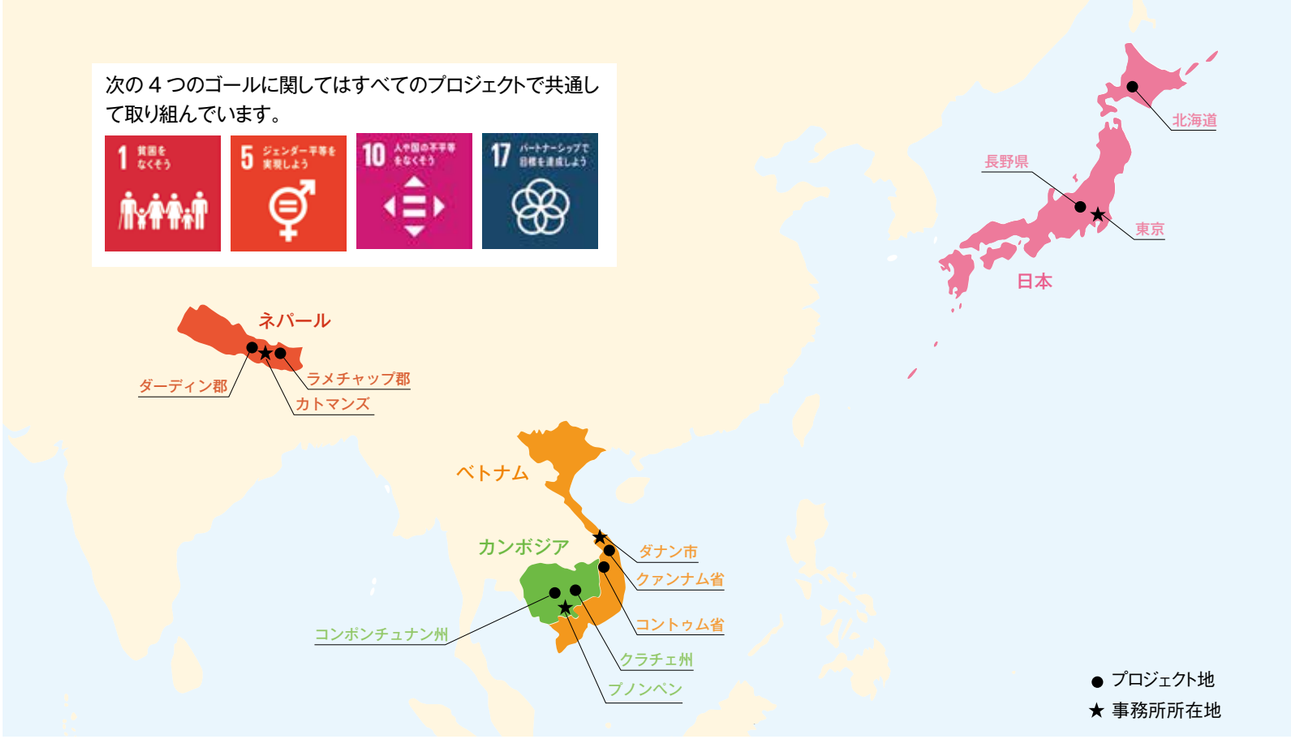
※詳しい会計報告は P17 をご覧下さい

活動地とプロジェクト概要

2019 年度は、3 か国において農業、食糧、栄養、医療、教育、産業育成の 6 分野で
9 プロジェクトを、日本において緊急援助の 2 プロジェクトを実施しました。
FIDR は事業活動を通じて「持続的な開発目標= SDGs」の達成に積極的に貢献しており、
各プロジェクトは、主に 10 のゴールに結びついています。

SDGs（持続可能な開発目標）とは

世界の永続的な繁栄を目指し、あらゆる形態の貧困を終わらせるとともに気候変動や経済的不平等の問題などに対処するべく、各国の政府、市民、企業が協力して取り組む指針として掲げられた17の目標です。2015年に国連サミットで採択され、2030年までに達成を目指すことがうたわれています。



カンボジア

カンボジアの地方で小児外科の医療体制をつくりあげる

カンボジア小児外科支援

総事業期間 1996年10月～2022年3月（予定）
対象地 クラチェ州およびプノンペン市
受益者 国立小児病院とクラチェ州の病院・診療所の医療従事者約**1,000人**
年間約**300人**のクラチェ州病院小児外科患者およびその保護者

栄養教育の普及により、子どもたちに笑顔と健康を

カンボジア栄養教育普及

総事業期間 2017年4月～2025年3月（予定）
対象地 カンボジア全国
受益者 教育省および保健省の職員
全国の公立校（小中高）の教員および生徒とその家族

農業の生産力アップ＆家族の健康促進

コンポンチュナン州農村開発

総事業期間 2011年4月～2021年3月
対象地 コンポンチュナン州内3郡9地区63村
受益者 約**48,000人**（11,774世帯）

農村地域の子どもたちに日本での学びを

カンボジア小学生来日研修

総事業期間 2019年8月～9月
実施地 日本・東京都、神奈川県、栃木県、千葉県
受益者 コンポンチュナン州内の小学校2校の児童**11人**、教員**2人**と両校の在籍児童全員

ベトナム

山岳地域を自らの力で丸ごとプロデュース

ナムザン郡地域活性化支援

総事業期間 2016年4月～2020年8月
対象地 クァンナム省ナムザン郡
受益者 ナムザン郡の住民約**23,000人**

もっとも貧しい地域で、栄養不良の子どもを減らす

ベトナム中部生活改善と子どもの栄養改善

総事業期間 2019年4月～2024年3月（予定）
対象地 コントゥム省内 全域
受益者 コントゥム省全域の5歳未満児（約**55,000人**）とその保護者世帯

ネパール

山村に安全な学び舎を

ネパール学校環境改善

総事業期間 2017年8月～2020年12月
対象地 ラメチャップ郡ゴクルガンガ地区／ダーディン郡ニラカンタ市
受益者 対象地の学校に通う子どもと教員および住民約**7,500人**

ナムザン郡の実績を土台に広域で産業育成

ベトナム中部発展型農村総合開発

総事業期間 2019年4月～2025年7月（予定）
対象地 クァンナム省9郡
受益者 クァンナム省9郡の住民約**304,400人**（80,850 世帯）

緊急援助

被災された人々の生活の再建と地域復興のために

北海道胆振東部地震緊急援助

総事業期間 2019年6月～8月
対象地 北海道勇払郡安平町、厚真町、むかわ町
受益者 安平町ならびにむかわ町内中学校3校の生徒、職員約**320人**
厚真町内の被災世帯**67世帯**

台風19号緊急援助

総事業期間 2019年10月～2020年3月
対象地 長野県長野市
受益者 市立保育園の園児、職員約**80人**
市立小中学校4校の生徒、職員約**1,380人**

共催事業

ベトナムの医療技術の向上と人材開発のために

ベトナム国際医療技術協力

総事業期間 2019年8月～2020年2月
対象地 ベトナム・ハノイ市、ホーチミン市、日本
受益者 ベトナム政府保健省職員および医療従事者

参加しているネットワーク

一団体としての働きに加え、より大きな効果を創出するために他団体と連携しています。

- ●日本:国際協力NGOセンター／栄養改善事業推進プラットフォーム
- ●ネパール:Association of International NGOs in Nepal
- ●カンボジア:Cooperation Committee for Cambodia／Japanese NGO Worker's Network in Cambodia／Scaling Up Nutrition Civil Society Alliance in Cambodia【執行委員】
- ●ベトナム:Vietnam SRI Network【発起人】／Networking of International NGOs working in Vietnam／ASEAN Agricultural Extension Networking／Health sector network in Vietnam／Scaling Up Nutrition Civil Society Alliance in Vietnam

子どもたちが「安心」して通える学校を！

～ネパール大地震から5年間の復興支援～

2015 年 4 月 25 日に発生したネパール大地震により、レンガや土壁づくりだった学校の多くが倒壊しました。FIDR は、食糧・物資の緊急援助を行ったのち、子どもたちが学ぶ環境を取り戻すための支援を続けてきました。5 年にわたる復興支援活動を振り返ります。

まず、仮設教室を設置

当時ダーディン郡で活動実績のあったFIDRは、郡より仮設教室の設置支援要請を受け、2015年9月末までに48棟104の仮設教室を設置しました。

ネパールでは、伝統的に学校の建設や運営に地域住民たちが深くかかわってきたことから、大切にしたのが、彼らの声と知恵。教室の造りは地元の「養鶏小屋」を参考に壁を金網にし、ベニヤ板やビニールシートで雨風が入るのを地域の人たち自身が調整できる工夫をしました。震災の影響で暗く閉鎖的な空間を怖がる子どもたちが安心して過ごせると保護者にも喜ばれました。

地域住民を主体とした校舎再建へ

2016年からは、同郡でニーズの高かった5校の校舎再建に取り組みました。

将来の災害の可能性に備え、農村部の学校としてはいち早く鉄筋コンクリート造りを採用しました。しかし、この工法の技術を持った人材は地元にはおらず、これまでのような「住民による学校建設」は難しくなりました。

それでも「子どもたちのために！」との強い思いで、震災直後のショックを抱えながらも、地域住民と知恵を絞りながら建設を進めました。工事用の水が確保できなかった村で、生活に不可欠な飲み水に影響を及ぼさない夜の時間帯に、地域住民が真っ暗な山中を歩き、当番制で水をバケツで運び上げたのは、地域住民の底力を感じたエピソードのひとつです。2017年、様々な障害を乗り越えて、これらの学校は、復興庁が管轄する再建校舎第一号として完成しました。

2018年からは、地理的に震源地直近でないこともあり支援が届いていなかったラメチャップ郡にも活動を広げ、2校の小中学校の建設に着手しました。子どもたちは地震直後に設置した簡易的な教室で授業を受けていましたが、月日の経過で劣化が激しくなっていました。FIDRはダーディン郡での経験を活かし「建築物の質」を保ちながら「住民参加」を最大限に実現できるよう努めました。作業員として働いた住民は、研修と実践を通じて技術を習得しました。彼らが今後も地域の発展に貢献することを期待しています。

5年間で子どもたちにもたらしたもの

5年間で、104の仮設教室を設置、8校56教室を再建・修繕、7校でトイレ施設を建設しました。今回の支援が、ネパールの子どもたちに安心、安全な学習環境をもたらしただけでなく、学校を取り巻く地域の経済的、社会的発展への足掛かりとなることを願います。

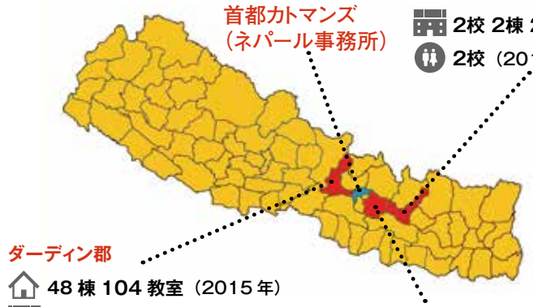
これらの復興支援は、多くの法人・個人の皆様から寄せられた緊急援助募金や、さまざまな場所での募金活動によるご支援で成し遂げることができました。心から感謝申し上げます。

地震後数か月内で仮設教室を設置

2015 年の大地震で校舎が倒壊

地震後数年間、子どもたちは簡易的な教室で学んでいました

FIDR が支援した教育施設



仮設教室の設置 **48 棟 104 教室**

校舎再建・修復 **8校 19 棟 56 教室**

トイレ建設 **7 校**

カンボジア

地元リーダーが意欲的に活動を先導

コンポンチュナン州農村開発

プロジェクト3年目となる当年度、初年度から活動している25村（4,552世帯）では、SRI農法※、家庭菜園、養鶏の実践世帯がいずれも6割を超え、2年目から新たに活動を開始した7村（1,635世帯）においても順調に伸びてきました。

乳幼児を持つ母親による補完食の共同調理研修は、全32村で自主的に行われるようになり、家庭での補完食調理が少しずつ定着してきました。

ともに活動を進めている行政担当官たちは、初期段階では控えめでしたが、プロジェクトへの姿勢が変わり、関わりが積極的になってきました。彼らを中心に各地区・村の農家の能力も向上しつつあり、「自分たちがモデルになって、コミュニティを変えていく」と意欲的に行動する人々が続々と現れました。そうした人々の主体的な活動を確実にするため、農民組合の経営拠点となる事務所建設を支援し、8月に竣工式を迎えました。

※化学肥料を使わず、少ない種籾や水と自作の有機肥料により稲を育て、収穫増加を図ることができる、開発途上国に適した農法

*当プロジェクトは 2018 年 1 月から外務省の NGO 連携無償資金協力を受け実施しています

ワークショップにて自身の経験を発表する農家の人々

背景目的 カンボジアでは貧困層の約9割が農村部に暮らしており、生活基盤である農業の生産性の低さと、保健・栄養に関する基礎的な知識の不足が大きな課題です。このため、子どもの慢性的な栄養不良による成長阻害や学業への影響が生じています。対象地域の住民が健康的な生活を送るために十分な食糧を確保し、栄養のある食事を摂れるようになることを目指してます。

主な活動
①SRI農法、家庭菜園、養鶏による農業の生産性向上
②食生活および衛生状態の改善
③情報および経験共有の促進
④農民組合の組織基盤強化

3学年分の教科書執筆が完了

カンボジア栄養教育普及

FIDRが主導して作成した「学齢期の子どものための食生活指針」について、行政や国際援助団体など多方面からの求めに応じて紹介したほか、全国放送のテレビ番組に教育省学校保健局の職員とFIDR職員が出演して認知向上を図りました。

カンボジア教育省では、小学校から高校まで保健科目の導入を2025年に予定しています。そのスケジュールに基づき、当年度は保健教科書の栄養単元の執筆を進め、小学1、4年と、高校1年について完了し、次いで小学2、5年、中学2年に着手しました。将来FIDRの支援がなくとも教科書の改訂ができるよう、執筆作業と並行して、学校保健局の担当者に向けて栄養の基礎講座や教科書内容についての研修などを行い、能力向上を図りました。

全国の学校での栄養教育開始に先立ち、その実践のモデルとなる学校4校をコンポンチャム州に選定し、今までは栄養について学ぶ機会がほとんどなかった教員たちに栄養に関する研修や国内視察研修を実施しました。

モデル校での栄養教育の様子

背景目的 国民の栄養状態が他国に比べて顕著に劣るカンボジアでは、全国の公立小学校・中学校・高校で正式な教科となる保健科の中で、栄養分野の指導を重視していますが、カリキュラム構築と教科書の執筆、および教員の知識強化が課題となっています。カンボジアにおいて、食生活指針を取り入れた体系的な栄養教育が教育省指導のもと全国レベルで実施されるよう、その基盤を作ります。

主な活動
①子どもの食生活指針の普及
②保健教科書の作成支援と教育行政の人材育成

クラチェ州病院の外科患者の満足度が上昇

カンボジア小児外科支援

地方の子どもたちが外科治療を十分に受けられるよう、2017年から北東部にあるクラチェ州病院を拠点に活動しています。当年度は、手術室に麻酔器、手術器具などを配備しました。日本人小児外科医や首都の国立小児病院の医師を招聘して臨床指導を行い、さらに隣国タイでの病院視察や日本の病院への研修派遣も実施しました。その結果、外科の入院患者への満足度調査では、職員の態度や院内環境の改善が評価されていることがわかりました。また、FIDRが外科のトイレを昨年度に改修して以降、他科も触発されて独自予算でトイレを改修しており、病院側の意識の変化が顕れ始めています。

村落では、患者と最も身近に接する医療職である保健センター職員に小児外科疾患を知ってもらい、患者の早期発見に繋げる研修を行いました。FIDR職員が病院職員とラジオ番組に出演して、手術治療を受ける大切さを人々に理解してもらう啓発も試みました。

*当プロジェクトは 2019 年 3 月から外務省の日本 NGO 連携無償資金協力を受け実施しています

日本人医師（左）と国立小児病院医師（右）による、クラチェ州病院医師への臨床指導。若手の刺激となり、彼らの技術向上を支えています

背景目的 5歳未満児の死亡率が他のアジア諸国に比べて高いカンボジアでは、小児外科の診療の能力および体制が立ち遅れていることが重要な課題のひとつとなっています。特に地方における医療格差は大きく、的確な外科的対応を受けられない子どもが多く存在します。クラチェ州および近隣地域の子どもが迅速かつ適切な診断、および外科治療を受けられるように、州病院を拠点とした小児外科医療体制を整えます。

主な活動
①クラチェ州における小児外科診療の質的改善
②国立小児病院職員を中心とする指導体制の強化

子どもたちが初めての異国を経験

カンボジア小学生来日研修

FIDRが校舎建設を支援したコ・カエウ小学校（2003年）とター・カコ小学校（2005年）の最上級学年の児童計11名が8月30日から8泊9日の日程で来日し、日本の歴史や伝統文化、生活、技術についての理解を深めました。浅草、皇居、鎌倉などの観光地、山崎製パン本社、同横浜第一工場、葛飾区立清和小学校を訪問しました。子どもたちは、日本の衛生環境、人々の規律正しさ、小学校の図書室、戦争の経験とその後の発展などが強く記憶に残ったと語りました。帰国後は、「自分の将来や家族、地域、国のために一生懸命勉強したい」「友達と一緒に学校や村の環境をよくしたい」といった意欲も示し、今回の学びが同校の他の児童や地域の人々にとっても有意義なものとなると期待されます。

葛飾区立清和小学校の児童と、交流会や給食で楽しい時間を過ごしました

背景目的 カンボジアでは、都市部と農村部との経済的・社会的格差が大きく、地域や国の発展を担う人材となりうる視野や意識を持つための教育的な環境という点においても、大きな開きがあります。農村地域における小学校の子どもたちの来日研修により、見学や体験を通じて多くの学びと刺激を受け、将来の国づくりと日本との交流の要となる人材育成への契機とします。

ベトナム

特産品の販路が拡大、自立への基盤づくりが進む

ナムザン郡地域活性化支援

少数民族の地域産品を様々な機会に紹介しました

当プロジェクトでは、中部山岳地ナムザン郡の少数民族の人々が主体となり、観光や地域産品の開発を通じた地域活性化に取り組んできました。4年目を迎え、地域産品の質の向上や、人材の成長など、成果が着実に表れています。

織物に代表される少数民族カトゥー族の伝統工芸は、国内外に広く知られるようになり、クァンナム省やナムザン郡の行政府が来賓を迎える際に手渡される記念品として採用されるまでになりました。10月にはナムザン郡を中心とするベトナム中部の7民族の伝統織物ネットワークを立ち上げ、少数民族の多様な織物工芸を保全、発展させるための相互協力の基盤を作りました。

ナムザン郡の農産物の商品開発も進み、高い関心を寄せる日系企業が、現地で製造工程と製品を確かめ、商品化することが決まりました。こうした流れをさらに強化するため、12月には少数民族9名が来日し、九州と大阪にて地域の特産品開発と販売戦略を学びました。

カトゥー族の村では観光客を受け入れ収入につなげていましたが、2月以降は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、観光ツアーがすべてキャンセルとなりました。しかし、人々は農産物づくりとその販売に力を入れ、収入面で大きな影響は表れませんでした。こうした臨機応変の対応力が高まったことも大きな成果の一つと言えます。

人々の心にも大きな変化が生まれています。カトゥー族観光協同組合理事のア・ラット・ルオン氏は「以前は、カトゥー族独自の生活文化の価値に気づいておらず、

上／伝統織物ネットワーク設立ワークショップの様子
左／訪日研修では、1980年代に「一村一品運動」のさきがけとなった大分県も訪問。専門家の講義を受け、市場を視察しました

キン族（ベトナムの人口の8割以上を占める民族）よりも劣っていると感じていました。プロジェクトに参加し、自分と自分の民族を誇りに思うようになりました。FIDRが私にそうしてくれたように、今度は私が多くの人たちを活動に巻き込み、サポートしていきたいです」と語ります。

当プロジェクトは、クァンナム省の行政官から地域振興のモデル事業として、「ナムザンモデル」と呼ばれるまでになりました。また、他地域から助言を依頼される機会も増えています。

＊本プロジェクトは、2016年度より独立行政法人国際協力機構（JICA）の「草の根技術協力事業」として、「ナムザン郡少数民族地域における住民主体による地域活性化のための人材育成」という名称で実施しています

背景目的 FIDRが2001年からナムザン郡タビン社を中心にカトゥー族とともに進めてきた地域開発の取り組みは着実に実を結び、2012年から住民が主体的に取り組み観光開発により地域振興を図るまでになりました。これを基盤に同郡全域および周辺山岳地域での産業育成へと展開するため、人材育成や官民支援体制、マーケティング体制および地域資源開発手法を構築し、地域振興の持続的なインパクトの創出を目指します。

主な活動
①観光開発研修、海外研修を通じた地域振興促進のためのリーダー育成
②地域資源を活用した開発事例の実現
③情報発信とマーケティング体制の構築

地域産業を育てる上での強みを発掘

ベトナム中部発展型農村総合開発

クァンナム省では、沿岸低地部はサービス産業を中心に経済成長が続いている一方、19の少数民族が居住する西部山岳地ではその大半は零細な農業に従事し、経済発展から取り残されています。クァンナム省は、FIDRが「ナムザン郡地域活性化支援プロジェクト」で極めて高い成果を挙げていることから、貧困率の高い同省山岳地域9郡で、少数民族全体の生活水準を高めるプロジェクトの実施をFIDRに要請しました。

これを受けて調査を行い、各地に残る豊富な自然や少数民族の伝統的文化が、特色ある地域の産業を育てる上で強みとなることが分かってきました。調査結果をもとに、地域産品開発の可能性、バリューチェーン構築の方策、地域間の連携強化のあり方などを見極め、現地関係者と共同で計画にまとめました。12月には、JICAに草の根技術協力事業として提案し、採択されました。活動開始は次年度を予定しています。

ティエンフックソン郡での調査にて。籠作りの伝統技術が継承されています

背景目的 FIDRが2001年からナムザン郡タビン社を中心に少数民族のカトゥー族とともに進めてきた地域開発の取り組みは着実に実を結び、2016年からは郡全体に地域を拡大し、住民が主体となって特産物や観光資源を活用した地域振興を進めてきました。この取り組みは、行政から「ナムザンモデル」として認知されるまでになりました。この事業経験を活かし、クァンナム省全域で地域資源を活用した産業を育成することにより、住民主体による持続的な地域振興の仕組みづくりを目指します。

主な活動 事業開始に向けた調査および協議

栄養不良の原因調査を実施

ベトナム中部生活改善と子どもの栄養改善

2018年度で終了したコントゥム省内2郡での子どもの栄養改善プロジェクトは、行政から高く評価され、省内全域に広げて欲しいとの要請がありました。コントゥム省では、先行プロジェクトの対象2郡以外では乳幼児の栄養状態の改善が進んでおらず、5歳未満児の栄養不良率は40%と国内で最も高くなっています。

当年度、その原因を調査し、地域住民の保健衛生の知識や行動だけでなく、農業の生産力や収入の低さも課題であることがわかりました。そのため、当プロジェクトでは、先行プロジェクトで推進した乳幼児の補完食や「マザーズスペース」（トイレ・シャワー・洗濯の施設）設置などの活動に加えて、農業技術やコミュニティーの協力体制を高める活動を行うことで、地域全体の生活改善を図り、その効果として子どもの栄養・健康が持続的に増進するというアプローチを取ることにしました。次年度に活動を開始します。

コントゥム省の少数民族地域での調査の様子。住民自身が自分の村について分析しました

背景目的 ベトナム中部にあるコントゥム省は、全国で子どもの栄養不良率が最も高い地域の一つであり、子どもたちの栄養状況を改善する対策が急務です。対象地域に住む5歳未満児の栄養状態の改善を図るとともに、農業振興を通して収入源の安定を目指します。

主な活動 事業開始に向けた調査および協議

ネパール

安心して学べる校舎と衛生的なトイレが完成

ネパール学校環境改善

完成したラメチャップ郡のシッダジョティ・ハリミシュラ小中学校の校舎と子どもたち

2018年9月に建設を開始したラメチャップ郡のシッダジョティ・ハリミシュラ小中学校、シヴァ小中学校の新校舎は、2019年7月に完成を迎えました。新校舎は、幼児学級、小学校5学年、中学校3学年の子どもたちが学ぶ、9教室と教員室、図書室を有する2階建てで、ネパール政府の定めた耐震基準を満たす鉄筋コンクリート造りです。2015年の大地震から4年あまりを経て、ようやく安心して学ぶことができるとの喜びの声が聞かれました。

工事は資材調達、工程管理などを的確に行ったことに加え、地元住民の熱心な働きに支えられて順調に進み、ネパール政府からは成功例のひとつとして高く評価されました。

また、ダーディン郡のラグー中学校、パテニ小中学校、ガウリシャンカー小中学校のトイレ建設も完了しました。いずれも将来の地震に備えて十分な強度を持つ造りになっています。次年度は、これらの施設を学校や地域住民が中心となって維持管理し、子どもたちに適切な使用を促していけるよう働きかけていきます。

背景
目的
ネパールの山岳地では、教育インフラの改善が重要な課題となっています。とりわけ、2015年のネパール大地震で甚大な被害を受けた学校校舎の多くは未だ再建されず、仮設校舎も劣化が進むなど、子どもたちは劣悪な環境の中で教育を受けています。FIDRは、ラメチャップ郡とダーディン郡の山岳地の学校環境の改善に取り組みます。

主な活動
①地域住民主体による計画策定と活動運営
②校舎建設、トイレ建設による学校施設の改善

共催事業

ベトナム国際医療技術協力

共催団体:公益財団法人国際医療技術財団

日本の歯科技工分野の専門家がハノイの病院を視察し、研修やデモンストレーションを実施するとともに、関係者と今後の支援の方向について協議を行いました。また、日本の鍼灸医療への理解を深めてもらうことを目的に、ベトナム国立伝統医学大学の副学長や国立鍼灸病院の院長等４名の本邦研修を実施しました。

目的 ベトナム保健省並びに医療従事者を対象に、セミナー開催、来日研修、専門家派遣を通じて同国の医療技術および医療サービス向上に寄与することを目指します。

ハノイで開催された歯科技工研修の様子

緊急援助

学校および仮設住宅への支援を実施

北海道胆振東部地震緊急援助

2018年9月に発生した北海道胆振東部地震の被災地支援に向けて調査を行い、現地の行政と協議しました。

この震災で校舎に大きな被害を受けた安平町立早来中学校は、プレハブ仮設校舎での授業を3年間行うこととなっており、住宅の被害が多く生じた厚真町では170戸の仮設住宅が設置されました。当地のプレハブ施設は気密性が高く冬季の寒冷対策は十分になされている一方、夏季の暑熱に対しての防御が一切ありません。近年北海道でも夏季の気温は高く、熱中症が懸念されていました。

むかわ町では、町立中学校2校の体育および部活動の器具が震災により損失してしまい、授業や課外活動に支障をきたしていました。

FIDRは3町からの要請を受けて、空調機や部活動器具等の物資を提供しました。

町立早来中学校に提供した空調機

主な活動
①安平町：町立早来中学校仮設校舎に冷房機2台提供
②厚真町：仮設住宅47戸に冷房機各1台・26戸に網戸、談話室2室に空調機各1台提供
③むかわ町：町立中学校に部活動器具97品、運動器具4品提供

被災した子どもたちを支援

台風19号緊急援助

2019年10月12日、伊豆半島に上陸した台風19号は、東日本の各地に記録的な豪雨をもたらし、広範にわたって河川の氾濫や土砂災害が発生しました。新幹線車両基地の冠水が報じられた長野市では、穂保地区等で千曲川の堤防が決壊し広い範囲が浸水しました。長野市内の公立小中学校および保育園の建物が甚大な損害を被り、さまざまな備品や電気水道の設備も使用不能となりました。

FIDRは長野市から被害の大きかった学校や保育園に対する支援要請を受け、長沼保育園に楽器、給食用器具等15点、長沼小学校、東北中学校、豊野中学校、松代中学校に、運動器具、部活動の用具類など369品を提供しました。

新しいボールカゴを使用する女子バレーボール部（市立東北中学校）

主な活動
①市立保育園：楽器、避難用手押しワゴン、厨房器具等の提供
②市立小学校・中学校4校：部活動の用具備品等の提供

みなさまとともに

FIDRは、約300の法人賛助会員や2,400人以上の個人賛助会員のみなさまをはじめ、ご寄付やボランティアでご協力くださるみなさまとともに、開発途上国の子どもたちや自然災害に見舞われた方々のために活動しています。2019年度のみなさまとのパートナーシップについて、一部をご紹介いたします。

山崎製パン株式会社、株式会社不二家、株式会社ヴィ・ド・フランス

山崎製パン(株)及び同社グループは、デイリーヤマザキ、ヤマザキショップ、不二家洋菓子店、ヴィ・ド・フランス等、全国約4,000店舗にて実施するヤマザキ「ラブ・ローフ」募金を通し、カンボジア栄養教育普及支援プロジェクト、ならびに、台風19号緊急援助のためにご寄付くださいました。

公益財団法人東京交響楽団

(公財)東京交響楽団は、被災者を応援するために定期的に開催しているチャリティー演奏会「Concert for Smiles」において、入場料に替えて集められた募金を、北海道胆振東部地震緊急援助および台風19号緊急援助のためにご寄付くださいました。

株式会社スーパーヤマザキ

(株)スーパーヤマザキは、お中元やお歳暮ギフト商品の売り上げの一部を、北海道胆振東部地震緊急援助および台風19号緊急援助のためにご寄付くださいました。

日本フルハーフ株式会社

日本フルハーフ(株)は、毎年5月に本社（厚木工場）に咲き誇るバラ園を一般公開する「ばら観賞会」において、FIDRの活動を支援するため募金を呼びかけ、ご寄付くださいました。

山崎製パン株式会社

山崎製パン(株)は、期間限定で発売した「北海道パンめぐりシリーズ」の菓子パンの売り上げから、1個につき1円を、FIDRが実施する北海道胆振東部地震緊急援助のためにご寄付くださいました。

ソントン株式会社

ソントン(株)は、カンボジアの栄養改善の取り組みを継続支援くださり、当年度は栄養教育ビデオの制作のためにご寄付くださいました。

株式会社カスタネット

(株)カスタネットは、オフィスプリンター用トナーカートリッジの売り上げの1%を、カンボジアの子どもたちを支援する活動に寄付してくださいました。

一龍齋 貞花 氏（講談師）

貞花氏は、定期的に開催されている講談会において、FIDRの国際協力や緊急援助の活動をご紹介いただくとともに、会場内でこれらの活動への募金を呼びかけてくださいました。

ご支援・ご協力いただいた企業・団体(一部)

市川ロータリークラブ
株式会社カジワラ
かみひとねっとわーく京都
ゴダイゴ、株式会社ハブ・マーシー
玉の肌石鹸株式会社
月島食品工業株式会社
東京カベナント教会
友栄食品興業株式会社
ホクト商事株式会社
有限会社ミタカ製袋
ヤマザキ製パン従業員組合
ヤマザキビスケット株式会社

（敬称略、50 音順）

株式会社オリエント4C's

(株)オリエント４C'sは、マリッジリング「Timeless Ones LOVERS」シリーズおよびエンゲージリング「Timeless Ones Propose Rings」のリングの売り上げの一部を、FIDRの活動国の子どもの支援のためにご寄付くださいました。

ミヨシ油脂株式会社

ミヨシ油脂(株)は、FIDRが出展・開催するイベントの来場者に配布するノベルティ商品として、エコバックの制作にご協賛くださり、広報活動を後押ししてくださいました。また、台風19号緊急援助へのご寄付をお寄せくださいました。

学生や社会人ボランティアのみなさん

当年度も、学生・社会人ボランティアのみなさまに、イベント企画・運営、郵送物の発送、封入作業や広報記事の翻訳作業など東京事務所での業務を支えていただきました。
一部のメンバーは、FIDRが主催した交流イベント「FIDRカフェ」に登壇し、開発途上国での栄養改善やごみ問題などのテーマで話題を提供したり、ワークショップを行ったりするなど、広報活動の一翼を担ってくださいました。

書き損じはがき収集活動にご協力いただきました

株式会社カジワラ／ケミ・コム・ジャパン株式会社／株式会社シンデザイン／聖路加国際病院救急部／株式会社東京堂／株式会社新潟ケンベイ／株式会社不二家／ホクト商事株式会社／三井不動産ファシリティーズ株式会社／その他多くの個人の方々（敬称略・50 音順）

広報啓発

開発途上国の課題やFIDRの活動について「みる、きく、交流する」そして「学ぶ」機会を提供しました。また、活動の成果を「読む」広報媒体で発信しました。

みる、きく、交流する

イベントの開催

FIDRの活動や国際協力への理解を高めることを目的としたイベント「FIDRカフェ『知ること、話すことからはじめよう、国際協力』」を様々なテーマで8回（4月～8月、10月、11月、1月）、FIDRが行うプロジェクトについて海外事務所スタッフが専門的な観点から報告する「FIDRフォーラム（小児外科）」を1回、栄養をテーマにした他団体との合同報告会を1回開催しました（共催：特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会）。

10月の合同報告会では、カンボジアの農村における栄養改善について、FIDRカンボジア事務所のチャン職員がNGOの立場で、シェアのカウンターパートである州保健局のメン氏が行政職員の立場で紹介しました

「グローバルフェスタ JAPAN2019」への出展

毎年秋にお台場で開催される、国内最大級の国際協力イベント「グローバルフェスタJAPAN2019」（9月28日～29日）に出展しました。FIDRのボランティアが中心となり、カンボジアでの支援活動の変遷を紹介したほか、途上国のゴミ問題についてのワークショップ、ベトナム「カトゥー族」の伝統手工芸品の紹介・販売、クメール語講座を行い、多くの方に来場いただきました。

ボランティアの方々が中心となり、来場者をお迎えしました

ご支援企業・団体内での報告等

ご支援企業・団体内において、活動報告会を実施しました。動画の視聴や、支援活動を通じて生み出された産品を手にとっていただくことで、参加者の皆様に支援地をより身近に感じていただき、賛助会費や寄付などのご協力が役立っていることを実感いただきました。

ヤマザキ製パン従業員組合における報告会では、ベトナムの支援地で生産された地域産品を題材にしたワークショップも実施

<報告会>

- ●月島食品工業株式会社（4月）　●日本フルハーフ株式会社（5月）　●ヤマザキ製パン従業員組合（8～10月、1月：計6回）
- ●ミヨシ油脂株式会社（11月）　●山崎製パン株式会社　本社および2事業所（11月、1月、2月：計3回）
- ●国際開発救援財団、ワールド・ビジョンジャパン合同報告会（10月）

学ぶ

開発教育受け入れ・出張授業

当年度は高校生の皆さんが、FIDRを通じた国際協力の実際について学びに来られました。また、職員が中学・高等学校、大学へ出向き、出張授業を行いました。

<開発教育受け入れ校>　郁文館高等学校、水戸啓明高等学校
<出張授業>　宮崎大学、駒場東邦中・高等学校

読む

広報誌等での活動 PR

FIDRの活動内容やその成果について、ニュースレターなどを通じて、賛助会員をはじめとする支援者の方々へ発信しました。

- ●FIDR NEWS104～107号の発行（計4回：4月、7月、10月、1月　各4,500部）
- ●年次報告 2018の発行（計1回：7月　4,500部）
- ●メールニュースの配信（計12回：毎月）

会計報告

貸借対照表（要旨）

2020年3月31日現在　（単位：千円）

Ⅰ. 資産の部		
1 流動資産		62,499
	現金預金	61,833
	未収金	88
	前払金	578
2 固定資産		440,443
	基本財産	303,000
	特定資産	126,278
	その他固定資産	11,165
資産合計		**502,942**
Ⅱ. 負債の部		
1 流動負債		13,598
	未払金	8,772
	前受金	27
	預り金	757
	賞与引当金	4,042
2 固定負債		54,404
	退職給付引当金	54,404
負債合計		**68,002**
Ⅲ. 正味財産の部		
1 指定正味財産		374,874
2 一般正味財産		60,065
正味財産合計		**434,939**
負債及び正味財産合計		**502,942**

正味財産増減計算書（要旨）

2019年4月1日から2020年3月31日まで　（単位：千円）

Ⅰ. 一般正味財産増減の部		
1. 経常増減の部		
(1)経常収益		
①受取会費		142,892
②JICA受託事業収益		16,694
③受取補助金等		45,177
④受取寄付金		99,975
⑤雑収益他		513
経常収益計		**305,251**
(2)経常費用		
①事業費		276,608
国際協力援助費	236,356	
緊急援助費	20,656	
広報啓発費	19,596	
②管理費		21,614
経常費用計		**298,222**
当期経常増減額		7,029
2. 経常外増減の部		
当期経常外増減額		**0**
当期一般正味財産増減額		7,029
一般正味財産期首残高		53,036
一般正味財産期末残高		**60,065**
Ⅱ. 指定正味財産増減の部		
①受取補助金等		28,974
②受取寄付金		61,011
③一般正味財産への振替額		△ 121,698
④補助金等返還金		△ 5,728
当期指定正味財産増減額		△ 37,441
指定正味財産期首残高		412,315
指定正味財産期末残高		**374,874**
Ⅲ. 正味財産期末残高		**434,939**

心をあわせ、未来をひらく

FIDRは、開発途上国の子どもたちの支援と緊急援助を行う、国際協力NGOです。

FIDRとは

公益財団法人国際開発救援財団（英語名Foundation for International Development/Relief）＝「FIDR（ファイダー）」は、1990年に日本で誕生した国際協力NGOです。

FIDRの2つのミッション

FIDRは開発途上国の子どもたちが健やかに育つことができる社会をつくります。

FIDRは日本国内のさまざまな企業、団体、そして多くの個人の皆様と一緒に、国際協力を推進します。

ミッションを実行するための3つの事業

国際協力援助事業

開発途上国の人々が貧困から脱して、地域が自立的に発展していくことができるように、さまざまな分野で現地に根差した活動を行っています。

緊急援助事業

日本を含むアジアの国々で自然災害に見舞われた人々への支援を行っています。

広報啓発事業

多くの方々との協力の輪を広げるための情報発信やコミュニケーションを行っています。

●団体概要

団　体　名：公益財団法人 国際開発救援財団
英語表記：Foundation for International Development/Relief（FIDR）
代　表　者：飯島 延浩
設　立　日：1990 年 4 月 26 日
行　政　庁：内閣府
基本財産：3 億 300 万円
事業目的：開発途上国において子どもの福祉を中心とした住民の生活環境の向上及び地域開発の推進に資するための援助事業を実施し、開発途上国の自立的発展及び福祉の増進に寄与する
海外並びに日本国内における自然災害の被災者への緊急援助を実施し、社会復帰を促進する
賛助会員：法人賛助会員　304 法人
個人賛助会員　2,406 名
事務所設置国：日本、カンボジア、ベトナム、ネパール

※ 2020 年 6 月現在

●役員・評議員一覧

理事長	飯島　延浩	山崎製パン株式会社代表取締役社長
副理事長	三木　晴雄	玉の肌石鹸株式会社代表取締役会長
副理事長	榊原　　寛	お茶の水クリスチャン・センター副理事長
常務理事	江川　信彦	株式会社サンデリカ監査役
理事	飯島　茂彰	ヤマザキビスケット株式会社代表取締役社長
理事	岡田　逸朗	公益財団法人国際開発救援財団事務局長
理事	岡松　孝男	昭和大学名誉教授
理事	小西惠一郎	公益財団法人国際医療技術財団代表理事・理事長
理事	戸田　信之	月島食品工業株式会社代表取締役社長
理事	長谷川冴子	東京少年少女合唱隊桂冠指揮者
理事	日暮　道生	栄香料株式会社取締役会長
理事	深沢　亮子	ピアニスト
理事	三木　逸郎	ミヨシ油脂株式会社代表取締役社長執行役員
理事	湊　　晶子	広島女学院院長・大学長
理事	吉田　輝久	飯島興産株式会社代表取締役副社長
監事	秋山　豊正	税理士
監事	飯島佐知彦	山崎製パン株式会社取締役副社長

評議員	安西　　愈	弁護士
評議員	飯島　幹雄	株式会社東ハト代表取締役社長
評議員	神長　善次	株式会社サンデリカ監査役
評議員	齋藤　昌男	弁護士
評議員	妹尾　正毅	一般社団法人日本倶楽部理事
評議員	中川真佐志	オリエンタル酵母工業株式会社代表取締役社長
評議員	増島　俊之	元総務庁事務次官
評議員	峯野　龍弘	ウェスレアン・ホーリネス教団淀橋教会主管牧師
評議員	村上　宣道	一般財団法人太平洋放送協会名誉会長

※ 2020 年 6 月現在

心をあわせ、未来をひらく

ご支援のお願い

＊当財団への賛助会費・ご寄付は税控除の対象になります

賛助会員へのご入会　　ご寄付（クレジットカード）

情報発信中!

Webサイト、Facebook、Twitter、Instagram にて
最新情報を発信しています

2020 年 7 月発行

公益財団法人　国際開発救援財団（FIDR）
〒 101-0062
東京都千代田区神田駿河台 2-1　OCC ビル 3F
TEL：03-5282-5211
FAX：03-3294-2525
E-mail：fidr@fidr.or.jp
URL：http://www.fidr.or.jp